

Ⅳ 総合的考察及び今後の課題

昨年度までに研究の構想もでき、本年度からは実践を充実させることが課題であった。実践の最小単位はひとつひとつの授業であり、本年度はこの「授業づくり」に取り組んできた。また、さらに本年度は、昨年度より課題とされていた小学部、中学部、高等部の連関を図っていこうと努めてきた。

本年度の取り組みは、次の点について成果を得たと考えている。

1つは、からだづくりを媒介とし、児童生徒の社会的自立を目指す授業の創り方について、学びあい、そのことによって授業そのものの質を高め、実践を充実させてきたことである。今日までに、計8回（年9回実施予定）の授業研究会を行い、特に、単元・題材の選定及び個を生かす指導の工夫について検討してきた。すなわち、どのような学習素材を通して指導するのが良いのか。換言すれば、指導の媒体となるものは何が良いのか。また、個を生かす指導の工夫として、学習内容に応じてグループ別指導が良いか、一斉指導良いかという指導形態の吟味。さらに、一斉指導がをする場合、個を生かす方策として、同一教材・複数課題、及び同一課題・複数教材という配慮が取り上げられて論議され、検討されてきたことは、今年度の成果といえることができる。

2つめは、「運動場面でのからだづくり」の中でも主要な実践の場である「からだづくり養訓」について、小学部、中学部、高等部の取り組みをもちより、その連関を検討したことである。「からだづくり養訓」のねらい、運動内容、指導形態、指導方法などについて、指導の実際をつき合わせ、小学部は「感覚運動の発達をねらいとし、まずひとつひとつの運動を正確に経験させる段階」であること、中学部は「感覚運動の発達をねらいとし、経験させるべき動きをサーキット化し、より豊富に経験させる段階」であること、高等部は、「持久力、筋力の向上を主たるねらいとし、いくつかの運動を精選して持続的に経験させる段階」であること、さらにこれらの課題をある程度クリアしている生徒については「自己のからだを認識し、自らからだづくりをしていく意欲をもつ段階」というように「からだづくり養訓」における段階的発展性を見いだしたのは意義あることだった。

今後の課題としては、次のような事項を挙げることができる。

1つは、3つの分野における「授業づくり」にさらに取り組み、実践を充実させていくことである。今年度は、「生活場面でのからだづくり」「運動場面でのからだづくり」が中心となったが、「健康管理に関するからだづくり」も今後さらに充実させていく必要がある。

2つめは、共通の取り組みの場における学部間の連携の問題である。今年度「運動場面でのからだづくり」（「からだづくり養訓」）について検討されたが、今後「体育（保健体育）」についても検討していかなければならない。また、その他の分野においてもさらに検討していく必要がある。

3つめは、実態把握及び評価の問題である。本校の教育課程の根幹を為す段階別教育内容表を含め、児童生徒の発達や課題がもっと細やかに把握できるような評価表の作成が望まれる。

来年度は、本研究の4年次にあたり、最終年度となる。残されている課題はこのように山積している。今後さらにこれらの問題を整理し、焦点化して、来年度の研究へとつないでいきたい。